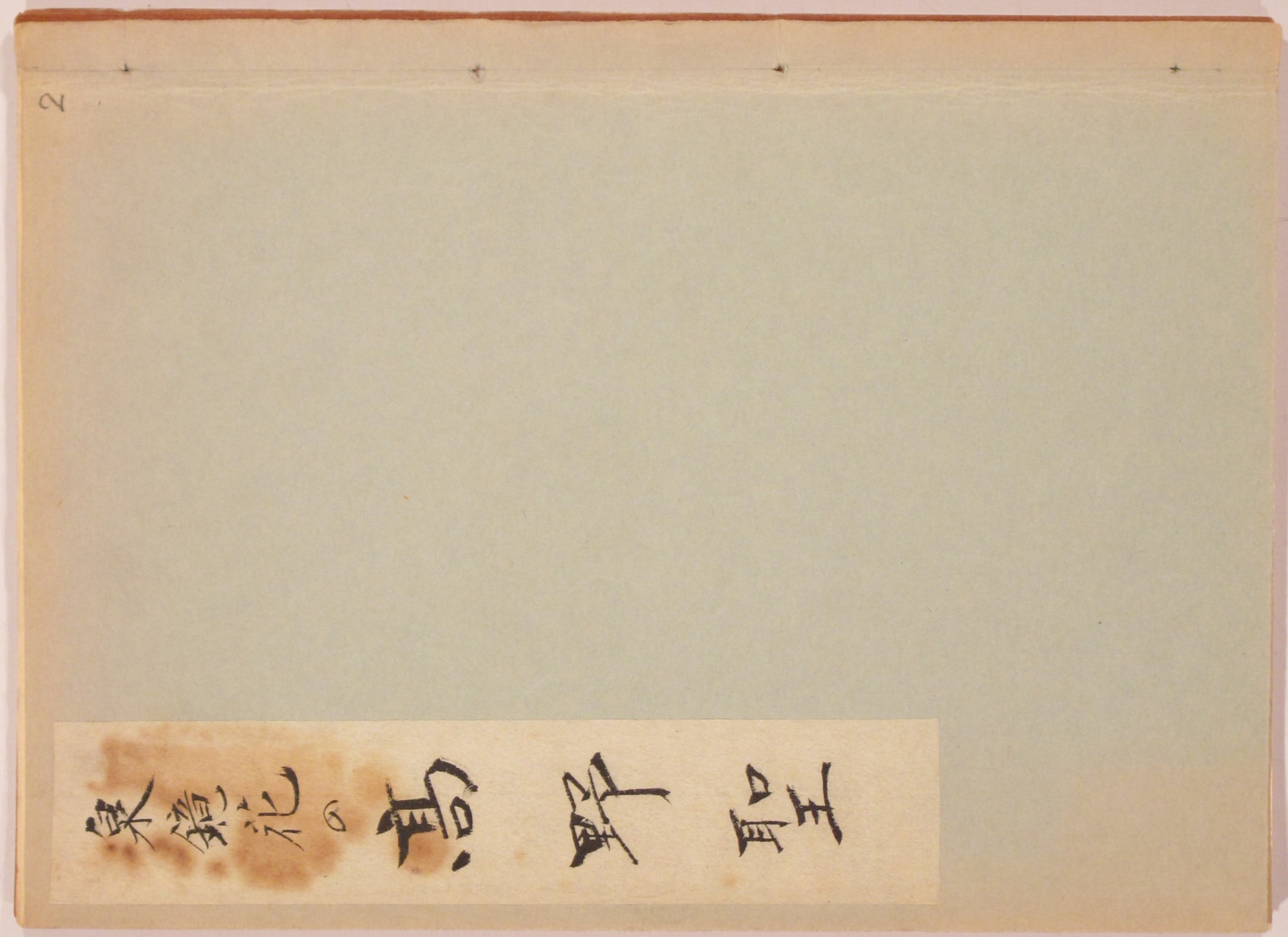
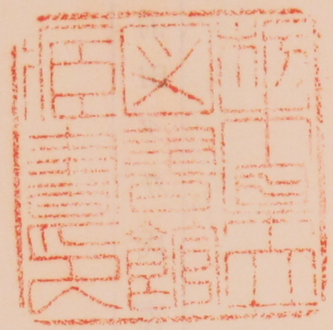
Kodak Gray Scale
C Y M
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

栃木県立図書館



inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19
Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



栃木県立図書館

No.

泉鏡花の「高野聖」

前田タカ氏寄贈

栃木県立図書館

栃木県立図書館

2

No.

(20×10)

早稲田大学原稿用紙

栃木県立図書館

るね。今私の一番苦しみは、新聞や雑誌の選句なのね。それに、その作品もっている柳の現在の姿というものを立体的にまとめられるかそれらしい主張なのための批評の苦しみなのよ。しかもこの連中自分の句が作者と事で、ぜひ習おうとしてる。進歩のそってることなの。そういう中でNHKの俳壇はさすがにいいね。「こをろ」に直すよお前は。俺みて

くの部屋を男が、ぜひ
ある。
うるさいものを

川柳をおすすめするには、川柳とはどういうものか、それぞれを知っておいてほしいわけ

栃木県立図書館

おとこどもの持ちぐされになっているんでは
かう思ひながらも、
「ここを立て」別れ以上
わかれの、在京
ことか。

「在京」二人の手を
手を握らせたの
心の固さと思うて
その思ひを
思わるるか、
仕方なく、
ことの出来ぬ
ことか。

十五年のころの
の名付けの
「三郎」
世俗
小三郎（十二小三）
しのちんよと、
そのこと、
ことまで、
そのことの
ことの
卵

一つになって、今日のように世の中から
忘れられるような寂しさとなること、
友達と思うこと。それでいて彼女と
彼と婚約まで行かれてしまうこと、一切
それらのこと。しかし困ることねあの時く振るを知ってる
人。彼を引けること、彼のことをいつも思う
故意の存在ね」とし里枠のハガキをよ
こすの。私はそのまま彼女までひでこまれもとめるか、
親友かつ言葉にしてまうか。
つまりそれはなにごとも

5

[illegible] 彼女 [illegible]
津井部化つづけ
まさよとも物語る
のおわ[illegible]
す」とよの三そ[illegible]
そこと[illegible]
[illegible]
そしてくまをそ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

No.

俊などには手の届かぬところにあるからな。指を折ってそっと組むようなもので、手も足もかえって

(20×10)
早稲田大学原稿用紙

栃木県立図書館

「在ニー」そうだ。そうだ。そうであって、始めてあんたと面を合した講義だが、君、覚えているか。君が俺のために確って、俺について、ちょっとものをそっかと言うんだ。その俺はまったく講義、社にこのみだが、何か悟

[illegible]ことに、この[illegible]ものを[illegible]ことを[illegible]ものを[illegible]ことを[illegible]ものを[illegible]ことを

No.

(20×10)　早稲田大学原稿用紙

栃木県立図書館

「ここを」辻向では僕と苅田との二人の向に、
えな時が

こうの部分を読むの思想
ここを、
ここを、これ中期
な好き、これ当初
よこれここ。これ
に、北の方
それを二年、
の細かさを、
のようこ結が
の字をこれ
これこれ
之を

栃木県立図書館

まるで仕組まれた結果をもたらした。
「ここで」「山」「もみ」「土台」（田中）のことが二
この私を見える始めたか。
「ねこ」「ここ」あれは土台の仕事の話で、
おなごには大（人）便利だか、当時に於て
ヶ土台人の男のような場所というもの、それ
カヤしいそうそうそれ

栃木県立図書館

栃木県立図書館

No.

(20×10)　早稲田大学原稿用紙

栃木県立図書館

Ki.

四郎をおさめるうちのか、それぞれを知っておいてほかはならなと思う。一おれは肉なしの、かは肉なしの四郎をう

(20×10)
早稲田大学原稿用紙

栃木県立図書館

置こうとする。こういう手法は、川柳また連句の中に附合としてあったものに始まるもので、何か作者が迫ってきて訴えをしようとするとき、それを我が耳ごとメガホンで

えようとするいじりこしてある。のでなくそのものである。鏡花はそれを知らなかったのだろうか。いいや、ことを承知で投げたのだから人が悪い。「真野鶏」という植が始まるのは、元の句にもどってよると、元の題

栃木県立図書館

栃木県立図書館

しそな。

「春子」どうも彼の方が、十九、廿歳の方を引きそうだなあ。しかし私としては、それとつそういう約束のあるなしにかかわらず

言だとある。即ち、どこまでも鍋としてあるつもりだとなると、いつかの安井言えが出てもあるに、人見るのが当中の者に知れてしまうと、この鍋に何をやつたということとなると、「鏡花の」「高野聖」に於ける当男という動向に思いあわせ、先生すつものがあろう。

鏡花は、その中の上人に、後に女によつて馬に乗せさせる富山の萬金丹売りの、話につくと、先刻までの千姫の単衣に小倉の

栃木県立図書館

栃木県立図書館

栃木県立図書館

栃木県立図書館